

## 第Ⅴ章 まちづくりマスタープランの実現に向けて

(構成案)

全体構成									
序章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりマスタープランの位置づけと役割</li> <li>・策定経緯</li> <li>・計画の目標年次・将来想定人口</li> <li>・マスタープラン改訂の基本的な考え方               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日野市の概況</li> <li>○ 時代の変化に対応したまちづくりの課題</li> <li>○ まちづくりの課題に対する方針</li> </ul> </li> </ul>								
第一部 日野のグランド デザイン	<p>第Ⅰ章 まちづくりの基本理念</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりの定義・目的・原則</li> <li>・まちづくりの責任と役割</li> </ul> <p>第Ⅱ章 日野市の目指す姿とまちづくりの方向性</p> <p><b>1 将来都市像</b></p> <p><b>2 4つの基本方針</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 記憶と文化を伝えるまち</li> <li>2) 暮らしの舞台を支えるまち</li> <li>3) 人々が活発に活動するまち</li> <li>4) まちづくりを支える仕組み</li> </ol> <p><b>3 都市構造</b></p>								
第二部 都市計画 マスタープラン	<p>第Ⅲ章 全体構想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地利用基本計画</li> <li>・まちづくり基本計画</li> </ul> <p>第Ⅳ章 地域別構想 (地域別まちづくり方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域別まちづくり詳細計画の位置付けと役割</li> <li>・地域別まちづくり方針</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td>○大坂上中学校地域</td><td>○平山中学校地域</td></tr> <tr> <td>○日野第一中学校地域</td><td>○七生中学校地域</td></tr> <tr> <td>○日野第二中学校地域</td><td>○三沢中学校地域</td></tr> <tr> <td>○日野第四中学校地域</td><td>○日野第三中学校地域</td></tr> </table>	○大坂上中学校地域	○平山中学校地域	○日野第一中学校地域	○七生中学校地域	○日野第二中学校地域	○三沢中学校地域	○日野第四中学校地域	○日野第三中学校地域
○大坂上中学校地域	○平山中学校地域								
○日野第一中学校地域	○七生中学校地域								
○日野第二中学校地域	○三沢中学校地域								
○日野第四中学校地域	○日野第三中学校地域								
第三部 今後の課題と展望	第Ⅴ章 まちづくりマスタープランの実現に向けて								

## 1. 協働によるまちづくりの推進

## 1-1 日野市で活動するすべての人々の責任と役割

- |             |        |
|-------------|--------|
| ○まちづくりの基本理念 | ○市民の役割 |
| ○企業（事業者）の役割 | ○市の役割  |

## 1-2 協働の場の創出

- まちづくりに関する協働の場の創出
- まちづくりの担い手となる人材の育成
- まちづくり活動のプラットフォーム

## 1-3 推進体制

- 庁内組織の横断連携
- 関係機関との広域連携

## 2 まちづくりを支える仕組み

## 2-1 まちづくりの仕組み

- 都市計画に基づくまちづくり
- まちづくり条例による協働のまちづくり

## 2-2 多様な制度の活用や仕組みづくり

- 多様な制度の活用
- 民間事業者の参画しやすい仕組みづくり

## 3 持続可能な地域を実現するために

## 3-1 地域資源の利活用

- 地域資源の利活用の考え方

## 4 まちづくりマスタープランの実現に向けて

## 4-1 まちづくりの進め方

- 目標を実現するための考え方
- 評価の仕組み（PDCA）と進行管理

## 4-2 まちづくりのロードマップ

## まちづくりマスタープランの実現に向けて

## 1 協働によるまちづくりの推進

## 1-1 日野市で活動するすべての人々の責任と役割

## ○ まちづくりの基本理念

- まちづくりは、常に次世代に引き継ぐべき姿を考え、良識と責任を持って、望ましい環境を創りあげていくように行われなければなりません。
- まちづくりは、誰もが安全で安心して暮らすことができ、災害にも強く、地球環境に配慮したまちを創りあげていくように行われなければなりません。
- まちづくりは、市民、事業者及び市の相互の信頼のもとに、公正で透明な手続の中で情報を共有し、協働により行われなければなりません。

## ○ 市民の役割

- 市民は、まちづくりの基本理念にのっとり、地域の将来像を共有し、自らその実現に積極的に取り組むものとします。
- 市民は、開発事業に係る紛争が生じたときは、相手の立場を尊重し、自らその解決に努めなければなりません。

## ○ 企業（事業者）の役割

- 事業者は、開発事業が地域全体に影響を及ぼすことを自覚し、自らの責任において、良好な環境が確保されるよう必要な措置を講ずるとともに、基本理念にのっとり、市が実施する施策に協力しなければなりません。
- 事業者は、良好な近隣関係が形成できるよう配慮するとともに、開発事業に係る紛争が生じないように努め、開発事業に係る紛争が生じたときは、相手の立場を尊重し、自らその解決に努めなければなりません。

## ○ 市の役割

- 市は、まちづくりの基本理念にのっとり、市のまちづくりに関し、基本的かつ総合的な施策を策定し、実施しなければなりません。
- 市は、施策の策定及び実施に当たっては、市民への情報の提供及び市民からの意見収集等に十分配慮するとともに、市民によるまちづくり活動の支援に努めなければなりません。
- 市は、事業者に対し、適切な助言又は指導を行わなければなりません。

## 1-2 協働の場の創出

## ○ まちづくりに関する協働の場の創出

- ・協働によるまちづくりを展開していくため、施策の形成、実施、評価の各過程において、市民や事業者に対する協働の場と機会を拡充
- ・協働の仕組みを整備
- ・地域懇談会の今後の展開 ～地区センターを活用した居場所づくり

## ○ まちづくりの担い手となる人材の育成

- ・まちづくりを多様な形で展開していくために担い手となる人材を確保
- ・市民・事業者・大学など多様な主体がまちづくりの担い手として活躍・連携できるよう、人材を育成
- ・産・官・学・民が連携して研修会の開催などの人材の交流の場の提供、専門家の派遣、まちづくり団体として組織化等を実施

## ○ まちづくり活動のプラットフォーム

- ・まちづくり活動の拠点となる施設や活動組織等を充実し、活動の活性化を支援
- ・産・官・学・民がそれぞれの枠を超えて連携するため、各主体に対する情報の受発信、人材育成、活動への参加・交流の機会の創出等を行うプラットフォーム組織の運営を検討

## 1-3 推進体制

## ○ 庁内組織の横断連携

- ・まちづくりの要請に幅広く応えていくために、庁内組織体制の横断連携を図る
- ・都市計画以外の分野が主体となる取り組みについては、必要に応じて庁内の関係課と連携し、効果的・効率的にまちづくりを推進

## ○ 関係機関との広域連携

- ・広域的な都市構造や都市環境に影響を与える可能性のある都市計画の決定や施策の展開を行う際は、まちづくりマスタープランの方針に沿って、関係する行政機関と調整し連携

## まちづくりマスタープランの実現に向けて

## 2 まちづくりを支える仕組み

## 2-1 まちづくりの仕組み

## ○ 都市計画に基づくまちづくり

## ● 土地利用の誘導、地域地区

- ・市の現状やまちづくりを取り巻く社会経済情勢の変化に応じ、今後の都市づくりの在り方をふまえ、用途地域等の見直しを行っていく
- ・法改正等の動向をふまえ、新たな制度を有効に活用する（低層住宅地に必要な機能の導入など）

## ● 市街地開発事業

- ・農地や緑の保全に配慮した土地区画整理事業の推進
- ・道路事業（日野3.3.4）の推進と沿道の土地利用誘導

## ● 地区計画制度の活用

## ○ まちづくり条例による協働のまちづくり

## ● 市民主体の地区まちづくり

- ・まちづくり条例では、市民主体のまちづくりを推進するために必要な仕組みを定めている
- ・市民の身近な生活圏において、住環境の保全や街並み・美観の維持管理、魅力づくりなどを目的として、地域住民で地区まちづくり協議会を設立し、計画やルールをつくることができる
- ・まちづくりのテーマとして、防災や自然環境の保全など、地区を限定しない特定のテーマについてのまちづくり協議会の設立も可能
- ・農地の所有者が、農地の計画的保全と活用を目的として、農あるまちづくり協議会を設立することも可能

## ● 協働による重点的まちづくり

- ・市が重点的・優先的にまちづくりを推進する必要がある場合、地区を指定してまちづくりを推進
- ・重点地区では、地区住民や関係事業者等を対象とした地区まちづくり協議会を設置し、市はまちづくりを支援

## ● 大規模な開発事業の協調協議

- ・大規模な土地取引や開発事業に対して周辺住民への説明などの手続きを定め、計画的な土地利用と良好な都市環境を創出

## ● まちづくり条例の見直し

## 2-2 多様な制度の活用や仕組みづくり

## ○ 多様な制度の活用と連携

## ● 立地適正化計画の活用

- ・立地適正化計画による、都市拠点や生活拠点の特性に応じた商業・交流・医療・福祉施設の誘導
- ・高齢者が身近な生活圏の中で買い物ができる住環境の充実

## ● 生涯活躍のまちづくりと連携した地域づくり

- ・住み慣れた地域で生き、看取られる、暮らし・医療・福祉のまちづくり
- ・多摩平の森地区での健康・医療・福祉とまちづくりの連携
- ・住み替えの仕組みの検討
- ・丘陵部住宅地におけるエリアマネジメント（空き家の活用・再生、地域情報共有プラットフォームの構築等）

## ○ 民間事業者の参画しやすい仕組みづくり

## ● 事業者を巻き込む仕組みづくり

- ・市・企業・大学・地域住民など多様な主体が、地域の課題解決に向けて協働するリビングラボへの取り組み
- ・商工会による日野商業まちづくりプラットフォームとの連携
- ・新しい交通手段検の社会実証のモデル地区づくり
- ・事業者の参画を促すまちづくりに関する提案制度など
- ・クラウドファンディングを活用したまちづくり活動の支援

## まちづくりマスタープランの実現に向けて

## 3 持続可能な地域を実現するために

## 3-1 地域資源の利活用

## ○ 地域資源の利活用の考え方

- ・地域別構想に示した暮らしの目標を実現するために、各地域の地域資源を把握し、今後の地域ニーズに応じて、利活用していきます。
- ・まちづくりマスタープランに基づき、関連する行政計画との調整を図りながら、地域資源をまちづくりに有効に活用していきます。

## ● 空き家・空き地

- ・空き家・空き地については、まちづくりに必要な地域資源のひとつとして捉え、地域住民のニーズに応じて交流の場、活動の場等として利活用できる仕組みを整えていきます。
- ・団地の空き住戸や未利用スペース等についても、建替えや改修の際に、地域に必要な機能を充足する空間として活用できるように誘導していきます。

## ● 小学校・中学校

- ・小中学校については、少子化の進行に伴って発生する空き教室等を、地域のニーズに応じて、多世代の住民が利用できる交流の場、地域活動の拠点として利活用していきます。

## ● 地区センター等の公共公益施設

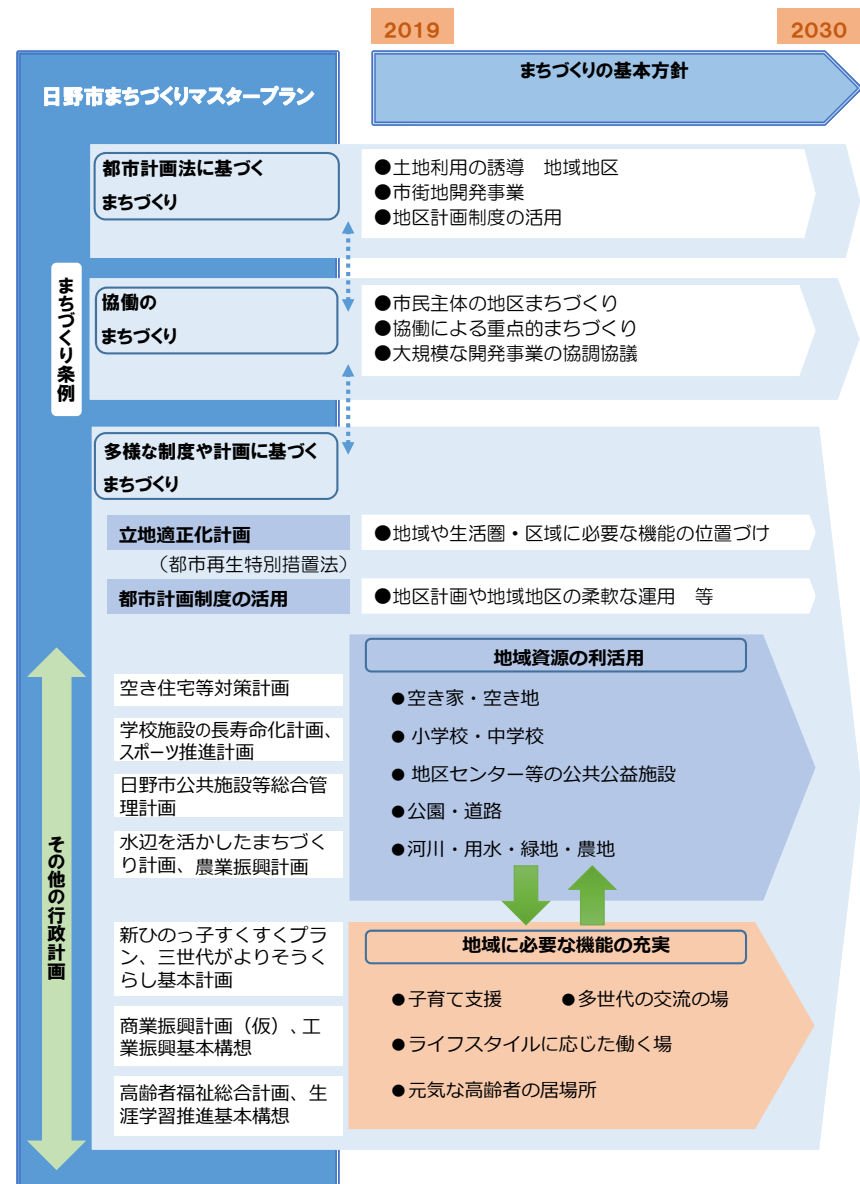
- ・既存の地区センターや図書館等の公共公益施設については、これからの地域ニーズに応じて、施設の運用方法の検討や、地域に不足している交流の場、働く場、憩いの場等の機能を充実していきます。（行政施設、文化スポーツ施設、福祉施設 等）

## ● 公園・道路

- ・既存の公園については、地域の特色に応じて、地域の様々なイベントへの対応や、子育て世代や高齢者など日頃の利用者にとって使いやすく、安全な公園への再整備を進めていきます。
- ・駅周辺等の道路空間についても、歩道部分を地域のイベントやにぎわい・交流のスペースとして利活用していきます。

## ● 河川・用水・緑地・農地

- ・河川敷や水路などの水辺空間や緑地を、地域住民の生活に身近な場として集える、学びと憩いの場として利活用していきます。
- ・農地については、農業者のみならず、地域住民が農業に関わりを持ち交流・憩い・学びの場として利活用していきます。



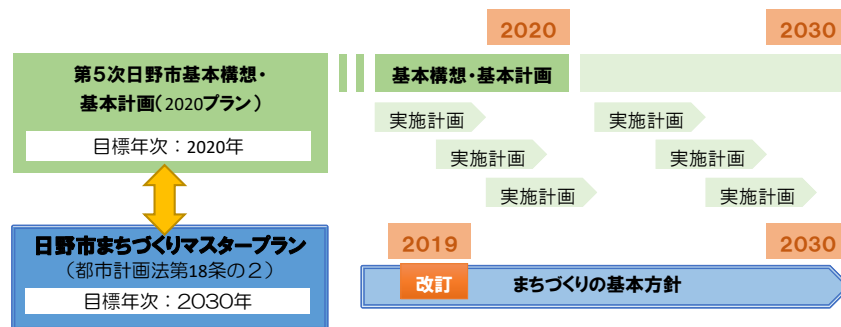
## まちづくりマスタープランの実現に向けて

## 4 まちづくりマスタープランの実現に向けて

## 4-1 まちづくりの進め方

## ○ 目標を実現するための考え方

- ・市の総合計画である日野市基本構想・基本計画と足並みをそろえ、まちづくりマスタープランに掲げた施策を実行計画に移し、まちづくりを推進していきます。



- ・まちづくりの目標を実現するために、短期（～5年）・中期（～10年）・長期（～20年）を目安として、各段階において着手し、実現すべき主要な取り組みをまちづくりのロードマップとして整理

## 早期に着手する取り組み

リーディングプロジェクトとして位置づける。短・中期で実現を目指す取り組みや、長期的な取り組みとした上で早期に検討を始めるべき取り組み

## 中期を目標に実現する取り組み

短期に検討を開始し、中期を目標に実現する取り組み。モデルとなる事例を実現し、展開

## 長期的な取り組み

実現に時間を要する取り組み。短中期の取り組みの実施状況や、社会経済情勢の変化等もふまえて取り組む

## ○ 評価の仕組み（PDCA）と進行管理

- ・まちづくりマスタープランの実現のため、PDCA（計画、実行、点検・評価、改善）による進捗管理と見直しを実施
- ・進捗管理については、マスタープランの基本方針に基づく施策の展開状況、各種事業の実施状況、効果等を定期的に点検・評価し、ロードマップを定期的に更新
- ・社会情勢の変化、総合計画等の上位計画の更新時期にあわせて更新
- ・立地適正化計画においてもマスタープランに示す目標を定量的な指標として示す

## Check（点検・評価）

- ・市民目線でのまちづくりの評価
- ・過渡的、中長期的に現れる諸課題の整理

## Act（改善）

- ・都市計画マスタープランの方針や各施策の妥当性の判断
- ・専門的な知見や客観的な評価を受け、総合的、既存の枠組みに限定されない柔軟な視点で改善策を整理

(仮)

## Do（実行）

- ・都市計画の決定・変更
- ・都市計画事業や各種事業の実施
- ・産・官・学・民の協働によるまちづくりの展開
- ・関係分野、関係機関と連携したまちづくり

## Plan（計画）

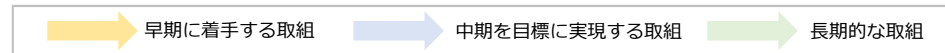
- ・都市計画マスタープランの策定

## Plan'（計画）

- ・評価内容に基づく都市計画マスタープランの見直し



## 4-2 まちづくりのロードマップ



		短期（～5年）	中期（～10年）	長期（～20年）	まちづくりの基本方針と目標		
取り組みの視点  ● 高齢化への対応	取り組みの視点  ● 高齢化への対応	● 田園住居地域の指定	● 民有緑地の公有地化		基本方針1 記憶と文化を伝えるまちをつくる	1-1. 水音と土の香りがするまち	水と緑の保全
		● 主要駅周辺等の緑化				1-2. 日野人・日野文化を育むまち	水と緑の育成
		● 景観計画・景観条例等の検討 ● 無電柱化の推進	● 用水の開渠化と水路景観の修景			1-3. 水と緑の自然の中で心と体の健康を育むまち	景観 歴史・文化
● 子育て環境の充実  ● 安心・安全な暮らし	● 子育て環境の充実  ● 安心・安全な暮らし	● ● ● 歩きとなるまちづくり計画の推進	● ● ● 水辺や農地を活かした公園の整備	● ● サイクリングルート等の検討			健康
			● 既存施設を活用した健康づくりの場の整備				生涯学習
● 水とみどりの豊かな暮らし  ● 暮らしを支える交通環境  ● まちの活力と産業	● 水とみどりの豊かな暮らし  ● 暮らしを支える交通環境  ● まちの活力と産業	● 地域防災計画改訂	● 土砂災害想定区域の居住規制 ● 浸水想定区域の避難施設等の確保		基本方針2 暮らしの舞台を支えるまちをつくる	2-1. 安心して住み続けられるまち	防災
		● 地域住民による防災体制の強化		● 地域の防犯力を高める施策の検討		2-2. 地域の特性を活かした、持続可能なまち	防犯 環境
		● ● ● 公共公益施設の計画的な整備・維持管理	● ● ● 一団の住宅団地の再整備	● ● ● 隣接市との公益施設の相互利用		2-3. 多様化する暮らし方を選択し実現できるまち	基盤整備 既成市街地
● 水とみどりの豊かな暮らし  ● 暮らしを支える交通環境  ● まちの活力と産業	● 水とみどりの豊かな暮らし  ● 暮らしを支える交通環境  ● まちの活力と産業	● ● ● 丘陵部住宅地のエリアマネジメントの推進 ● ● 空き家対策の計画的な推進	● ● ● 戸建住宅地等への生活支援機能の導入			2-4. たくさんの人・もの・情報が交差するまち	エリアマネジメント 新たな暮らし方
		● ● ● 子育て支援や交流の場の整備	● ● シェアハウス等の多様な居住形態の整備	● ● 住宅地での生活支援施設の整備		2-5. 一人ひとりが個性を輝かせ地域で支え合う環境	住み続けられる仕組み
		● ● ● 日3・3・4号線の整備 ● ● ● 安全な歩行者空間の整備 ● ● ● 公共交通の再編	● ● ● デマンド型や住民運転型コミュニティ交通等の導入	● ● ● 自転車走行環境の整備			道路 公共交通
● 水とみどりの豊かな暮らし  ● 暮らしを支える交通環境  ● まちの活力と産業	● 水とみどりの豊かな暮らし  ● 暮らしを支える交通環境  ● まちの活力と産業	● ● ● 地域懇談会によるアクションプランの推進 ● ● ● 多摩平・高幡台団地の取組推進（生涯活躍のまちづくり） ● ● ● 高齢者の身近な居場所づくり	● ● ● 活動拠点・情報プラットフォームの整備		基本方針3 人々が活発に活動するまちをつくる	3-1. 買い物やレクリエーションなど毎日の暮らしを楽しめるまち	地域コミュニティ 福祉
		● 立地適正化計画の策定	● 3拠点の商業・交流機能の充実 ● ● 生活拠点の生活支援・交流機能の確保	● ● ● レクリエーション拠点づくり（日野・高幡不動周辺） ● ● ● 外国人目線の観光まちづくりの推進		3-2. 日野のまちづくりと共に歩んできた産業とこれから共ま ちに歩むまち	商業 観光
		● 多様な主体によるリビングラボの取り組み	● ● ● 生活課題解決型の新たな産業の誘致・創出 ● ● ● 戸建住宅地でのコワーキングスペース等の整備			3-3. 農地のある暮らしを次世代へつなげるまち	工業 新たな産業 土地利用転換
● 水とみどりの豊かな暮らし  ● 暮らしを支える交通環境  ● まちの活力と産業	● 水とみどりの豊かな暮らし  ● 暮らしを支える交通環境  ● まちの活力と産業	● 土地利用の協議が必要な地域の指定と管理					農地
		● ● ● 農地を保全する土地区画整理事業の推進（川辺堀之内・西平山） ● ● ● 生産緑地の拡充、小規模農地の集約	● ● ● 農地の公有地化				農業
		● ● ● 農家レストランや、民間を緑の担い手とする制度の整備					